



1年次から複数の実習を同時に行い、 地域社会のマネジメント力を身につける

北九州市立大学 地域創生学群

1年次の実習で仲間と協働する 難しさに気づきました

1年次の実習で1時間のラジオ番組制作に取り組みました。私のチームは、意見の衝突等から準備不足で本番の放送内容は成功とは言えず、その悔しさが次の実習に生きています。(金子さん)



車いすソフトボール*1大会に出場。 体験するからこそ分かることが多いです

大会運営のほか、自分も車いすに乗り、ソフトボールをプレー。車いすで運動する苦勞を知り、競技の普及に向けて、何が 필요한か身をもって学ぶことができました。(早川さん)

高校の先生に課題をヒアリングし、 高校生にキャリア教育を行いました

演習(ゼミ)では、高校生のキャリア教育について研究中です。高校の先生から生徒同士の対話が深まらなると聞き、解決するための授業を行いました。(金子さん)

北九州市立大学地域創生学群は、地域創生学類のみからなり、地域社会で指導的役割を担い、地域の再生と創造に貢献する人材育成を教育理念に掲げる。その実現に向け、1年次から地域で行う実習を複数設置し、実践的なスキルを育んでいる。

数多くある実習科目の柱となるのが、1〜3年生が約30人ずつのチームになってプロジェクトに取り組む「地域創生実習」だ。農村部の地域活性化、子どもの学習支援など、地域の団体と連携して活動するプロジェクトがコースごと(*2)に設定されている。学生は入学時に希

1年次から地域の課題解決を 目指す実習に取り組む



地域創生学類地域マネジメントコース4年

金子美咲

かねこ みさき
福岡県立小倉西高校卒業。
学外でも教育系の地域活動に取り組んでいる。



地域創生学類地域ボランティア養成コース3年

早川優吾

はやかわ ゆうご
岡山県・国立津山工業高等
専門学校高校課程卒業。大
学では硬式野球部に所属。

*1 障がい者・健常者が老若男女を問わず、車いすに乗りながらソフトボールと一緒にプレーするスポーツ。

*2 地域創生学類には、地域マネジメントコース、地域福祉コース、地域ボランティア養成コースの3つのコースが設置されている。

望するプロジェクトを選び、原則3年間は同じプロジェクトで活動を行う。地域創生学類地域マネジメントコース4年の金子美咲さんは、1年次から大学生が町の課題に取り組むプロジェクトに入り、若者のシビックプライド（町に対する愛着）の醸成・向上に取り組んだ。

「1年生の時に高校生向けの進路イベントで、北九州市で活躍する社会人の講演会を実施しました。参加した高校生が話を聞きながら涙する姿を見て、人の心を動かす場面もプロデュースできると分かり、実習に積極的にならなきゃいけないと思いました」

ラジオ番組制作を通して 実習に必要なスキルを学ぶ

1年次から実習に積極的に参加できるよう「地域創生実習」と並行して全学群生が履修するのが、1年次前期の必修科目「指導的実習Ⅰ」だ。コミュニティFMのラジオ番組制作を、コースや出身地が異なる約5人のチームに分かれて行う。地域ボランティア養成コース3年の早川優吾さんは次のように振り返る。

「私たちはボランティアに必要な

『傾聴』に関する企画を考え、まず先生にプレゼンテーションしました。『消費者側からプロデューサー側に視点を切り替えるように』と徹底的に指導されました。他チームでは、泣き出す学生もいるほどでした」

金子さんもこの実習での経験が、以降の実習で役立ったと話す。「自分とは全く価値観が違う人たちが集まって、1つのものをつくり出す難しさを実感しました。まずは、メンバーが本音を言い合える場をつくることから始めました」

1年生だけの実習で、人数も少ないため一人ひとりの責任は大きい。この実習で、協働の難しさや事前準備の重要性を学んでいく。

複数の実習を同時に進め マネジメント力を磨く

学生が参加する実習ごとに、目的はもちろんメンバーや連携する地域の団体も異なるため、一人ひとりに求められる役割が異なり、学生は多様な知識・技能を習得していく。また、複数の実習を並行して履修しているため、事前準備、実際の活動、振り返りなどの活動時間を合計すると、週30時間以上に及ぶという。

「実習や打ち合わせの予定は、スマートフォンアプリと手帳で管理し、メンバーにも共有します。学年が上がるにつれてスケジュール管理やマネジメントが上手になりました」（金子さん）

学生は実習のほかにも、必修で専門性を深化させる演習科目（ゼミ）を2年次から履修し、同科目でも地域活動に取り組んでいる。

「ゼミでは、車いすソフトボールの普及活動を行っています。実際に自分もメンバーとして参加し、障がい者スポーツでは一人ひとりに合った用具の工夫や改良の必要があることを知りました。そうした課題をゼミの授業で先生や仲間と共有し、対応策を模索して、専門性を深めています。大学と地域、双方で学ぶ意義を実感しています」（早川さん）

そうした経験を積み重ね、力をつける学生が多く、同学群の就職率は6期連続100%を誇る。

「地域での実習や演習を通して教育にかかわる仕事がしたいと思い、教育系の企業に就職予定です。後輩にも、多くの実習体験から自分の道を見つけてほしいと思います」（金子さん）

大学の思い

日常的に地域とかかわり 失敗から成長してほしい



地域創生学群長
眞鍋和博
まなへ・かずひろ

どのプロジェクトも、実際の地域課題に根づいたものばかりです。一定期間だけ地域に入り、実習を行うのではなく、3年間同じプロジェクトを続けることで、日常的に地域とかかわり、目的を達成していきます。

理論を十分に学んでいない1年生からあえて複数の実習に取り組ませるのは、コミュニケーション力や社会人としてのマナーはもちろん、チームビルディング、プロジェクトマネジメント、リスク管理などの課題解決に必要なスキルを身につける必要性を体感してほしいからです。失敗経験を積む中で、学生は必要な知識や技能を主体的に学んでいきます。

次年度はカリキュラムを改訂し、演習科目でさらに専門性も追究できるようにする予定です。また、これまでは地域課題を解決できる人材の育成を主眼に置いていたため、北九州市中心に活動をしていました。ただ、海外に視野を広げれば、より自分の地域を相対化して見ることができると考え、学群独自の海外スタディツアーの開発にも力を入れていきたいと考えています。